# 計画性の無い流用、ムダ使いは見直しを

「貯金の余裕なんてありません」という声も聞かれますが、子育て世帯では、新居購入や子どもの進学等を念頭に、積立や貯金をする方も少なくないと思います。流山市でも、様々な名目で貯金をしたり、取り崩したりしていますが、その実態は（裏面参照）…。

## １０年間で２０億円がほぼゼロ。『まちづくり２１基金』

現在、おおたかの森駅周辺などＴＸ沿線の住宅開発は真っ最中ですが、進捗率は事業開始15年でほぼ半分（工事面積ベース）。今後も、過大な事業に莫大な経費が予測されます。

それらを見越した歴代市長は、Ｓ62年に『まちづくり21基金』を設立。毎年貯金してきました。しかし井崎市長就任後、取崩しを連発、10年間で20億円から１２３万円（Ｈ25年度末）と底をついてしまいました。

## 福祉や医療の特別貯金も大幅減

その他にも、市民の寄付等をきっかけに設立された福祉や医療に関係する特別基金。井崎市長は、Ｈ18年３月議会で３本の基金（※）を『健康福祉基金』に統合した結果、次々流用し、約10億５千万円から約１億８千万円（Ｈ25年度末）と大幅減です。

福祉や医療に関わる３本の特別基金は、『社会福祉基金』・『市民病院等保健医療施設整備基金』・『地域福祉基金』の３つ。使い方を特定・限定し、流用を認めていませんでした。

基金統合の議案審査した際、当時の担当部長は「一般財源がないからと安易な取り崩しは極力避けるべき」「ソフト面での活用は慎重に検討すべき」と答弁しています。

## 貯金はたった1億円でも、小中併設校127億円投入
## 公共施設の長寿命化や消防本部移転等は預金計画すらなし

いま問題となっているおおたかの森地区への学校整備。Ｈ10年頃から計画されながら、特別基金の積立はたった１億円。一方で小中併設校の計画をゆがめ、「市民の賛同はない」と認めながら１２７億円も投入するというのです。今後10年間で必ず必要となってくるその他の公共施設に対する資金計画も見通しもありません。計画的で安定した行政運営ができるのでしょうか。

## 市民目線で財運営直しを

行政主導で早期移転・新設した小山小学校は、低層校舎と福祉会館等の複合化導入、学区変更を怠った結果、開校４年で校舎増設。学校等の運営に支障が出ています。福祉や教育、くらしを支える施策を市政の優先課題に位置づけ、市民目線の計画的な財政運営こそ、いま流山市に問われているのではないでしょうか。

小田桐たかし

流山民報（号外）　発行：日本共産党流山市議団　小田桐事務所連絡先：７１５４－８２５３　携帯０９０－８５６７－８８５８